

セルビア語における‘habeo factum’タイプの構文について¹

野 町 素 己

1. はじめに

2005 年秋に出版された、実質的にアカデミー文法の一部をなす「現代セルビア語統語論：単文 (Синтакса савременога српског језика: проста реченица)」においては、これまでのセルビア語の伝統的な文法書とは異なり、「構造から意味へ」という構造的なアプローチと「意味から構造へ」という機能的なアプローチの双方向からの記述がとられている。これまでの構造的なアプローチでは、意味的に近い関係にある複数の言語現象が別個に記述されていたのだが、新たな試みである機能的なアプローチにより、意味カテゴリーの記述はもちろんのこと、意味カテゴリー同士の関係も研究され、その結果、これまで言及されることがなかった統語的現象も多く記述されている。その一例として、いわゆる‘habeo factum’タイプの構文についての記述を指摘することができる(以下HF構文と略する)。この構文は、上述の「現代セルビア語統語論：単文」では「所有完了 (посесивни перфекат)」という名で呼ばれている言語現象であり、所有性の意味カテゴリーの記述の枠内において、Предраг Пипер (2005) により記述されている。² 具体的には、次の例文 (1), (2), (3) のような構文である。

(1) Ове године имамо засејано детелином 70 хектара.

今年はクローバーを 70 ヘクタール蒔いてある。

(2) До сада имамо обрађено око 50 предмета.

これまでに約 50 の事例が片付けてある。

(3) Ви овде немате урађено све оно што је договорено.

¹ 本稿は、セルビア科学芸術学士院付属のセルビア語研究所が発行する研究誌 Наш језик の 2006 年 1-4 合併号の 43-51 ページに掲載された拙文(原文はセルビア語)を、その後の批判や討論を踏まえて書き改めたものである。その執筆にあたり、次の研究者から指導や助言を受けた。拙論全体については Предраг Пипер 教授(セルビア科学芸術学士院 / ベオグラード大学)、Срето Танасић 教授(セルビア語研究所)、Лили Лашкова 助教授(ブルガリア・ソフィヤ大学)、方言に関する情報は Софија Милорадовић 教授(セルビア語研究所)である。マケドニア語については、Zuzanna Topolińska 教授(マケドニア科学芸術学士院)および Лидија Тантуровска 博士(マケドニア語研究所)にご教示いただいた。ここに謹んで感謝の意を表する。

² Синтакса савременога српског језика: проста реченица, С. 693.

ここであなたは約束したことをし終えていない。

この種の構文は、セルビア語、あるいはセルビア・クロアチア語の文法では、これまで記述されていなかった。また、セルビア語研究所より現在刊行中である「セルビア・クロアチア文語・民衆語辞典 (Речник српскохрватског књижевног и народног језика САНУ)」にも、マティツァ・スルプスカの「セルビア・クロアチア語文語辞典 (Речник српскохрватског књижевног језика)」にも、このような例文は登録されていない。³

上述のПипер (2005) が指摘しているように、いわば半分は助動詞的な役割を担っている動詞*habere*と被動形動詞の過去形が結合した構文は、他のスラヴ語にも広く知られている。例えば、Bohuslav Havránek (1937) は、多くのスラヴ語を例に挙げ、動詞*esse*あるいは*habere*と被動形動詞の過去形が結合した形式が完了を表すことを示している。⁴ 同じように、Zdzisław Stieber (2005) も、この構造は「新複合過去時制 (?)」であるとして、スラヴ諸語で広く見られると指摘している。そして、その構造が用いられる条件を明らかにすることをその課題のひとつとして掲げている。⁵ その他の研究書にもこの構造が言及されることは非常に多いのだが、どの著書にもセルビア語に関する記述は無い。

また、セルビア語の位置する地域的特質として、この構文をいわゆる「バルカン言語連合」の見地から検証することも無駄ではない。アルバニアの言語学者Shaban Demiraj (1994) は、その有名な著書「バルカン言語学」において、*habere*動詞を用いた「分析的完了」がバルカン半島の諸言語、具体的にはマケドニア語の西部方言 (例：*има работено*)、アルバニア語 (例：*kam punuar*)、アルーマニア語 (例：*am lăudat*)、現代ギリシャ語 (例：*eikha demeto*) に広く見出されることを指摘しているが、セルビア語における当該構文の存在に関しては、文語、方言ともに言及されていない。⁶

³ Irena Grickat (1961) もこのテーマで論文を書いていることが、後に述べるように、アプローチが異なる。Grickat I., Razvoj značenja glagola *imati*. С. 67-81.

⁴ 例えば、チェコ語の *mám zatopeno* (訳：火をおこしてある)、*měli ještě zavřeno* (訳：まだ閉じてあった) といった構文のことである。Havránek B., Genera verbi v slovanských jazycích II, С. 76-77.

⁵ Stieber Z., Zarys gramatyki porównawczej języków słowiańskich, С. 245-246.

⁶ 次の本を参照されたい。Demiraj Ш., Балканска лингвистика, С. 182-185. ここでは扱わないが、注意すべきは、セルビア語の方言、特にアルバニア語やマケドニア語などに接するプリズレン地方では、Demiraj が言うところの「分析的完了」が観察されている。Радивоје Младеновић (2001) によれば、被動形動詞が他動詞から派生したものであれば、動詞 *habere* と結合し (例：*Немаме карано, имаме зборено за тија, имам уработано, имаи земено* など)、自動詞から派生する場合には動詞 *esse* と結合することが報告されている (例：*мије сме дојдени*)。尚、セルビア語とアルバニア語との言語接触においては、逆の影響も観察されている。例えば、Вања Станишић (1995) は、コソボ地方のアルバニア語方言においては、標準語で動詞 *habere* (一人称単数形は *kam*) が使われるところで、代わりに動詞 *esse* (一人称単数形は *jam*) が使われることを指摘し、これはセルビア語の影響であるとしている。例を挙げるなら、アルバニア語文語では *kam ardhë*, *kam shkue* となるはずだが、この地方の方言では *jam ardhë* (= *дошао сам*)、*jam shkue* (= *ишао сам*) となるという。

これらの事実から、現代セルビア文語においてHF構文の存在が言及され記述されたのは、セルビア語学のみならず、スラヴ語学、とりわけスラヴ語類型論にとって意義深いことであると言えよう。さらに古くは、例えばAntoine Meilletなどが取り組み、近年の言語類型論において、しばしばテーマとして取り上げられる「文法化」という現象に関連する貢献ともなりうる。⁷

ただし、これまでの記述が無いことから窺い知れるが、セルビア語においては、このHF構文は意味的に使用範囲が狭く、文体的な制限も伴って、その使用頻度は低いことが知られている。そしてセルビア語文法の中でも周辺的な地位を占めていることは否めない。したがって、上記の「現代セルビア語統語論：単文」においても、その記述は短く、これでこの構造の全体像、具体的な意味・文法的特徴を把握するのは困難であるし、実際にそれは「現代セルビア語統語論：単文」の目的ではない。また、HF構文は当該統語論において、所有性の意味カテゴリーの枠内で記述されているため、その動詞としての性質の検討がなされていない。

以上を踏まえ、本稿ではセルビア語における所与の構造の意味的・文法的特徴を概観し、その際、部分的に他のスラヴ語の類似構造と比較し、セルビア語の特徴を明らかにすることを試みる。⁸

2. HF構文の結果性的な意味について⁹

2.1. HF構文とペルフェクト（jesam 動詞+L分詞）

HF構文、ペルフェクトともに結果性的な意味と関係する。すなわち動作の前と後という二つの時制と関係がある。このことについて、Александар Белић (2000) は、ペルフェクト（jesam動詞+L分詞）について、「*дошао је старац*」と言うときは、われわれは、過去に完了した動作と現在における主体の繋がりを確かにしている。すなわち、jesam動詞は、ある程度まで現在の意味を保っているのである。そして、それによって、過去において完

⁷ 例えば、Bernd Heine と Tania Kuteva (2006) の研究で取り上げられている。尚、この本ではセルビア語及びクロアチア語を含めた多くのスラヴ語の例が引かれているが、例文はほぼ他の研究からの引用であり、データの扱いに細心が払われているとは言えない部分もある。詳しくは本稿の注 22 を参照されたい。

⁸ なお、本稿で挙げる例文は、ベオグラード大学数学科の Душко Витас 教授のセルビア語コーパスから得られたもの、そしてセルビア語を母語とする 6 人の言語学者のインフォーマントから得られたものである。

⁹ ここでは、結果性を表すペルフェクトとアオリストとの関係などは扱わないが、このことについては例えば Kazimierz Feleszko が書いている。Feleszko K., O rezultatywności perfektum serbsko-chorwackiego, C.145-149.

了した動作と主体とが現在において結びついていることが示されるのである。これが *jesam* ペルフェクトの真の意味であり…一種のペルフェクト現在である。」と言っている。¹⁰ また Tomislav Maretić (1963) も *Белић* と類似した見解を述べている。Maretić は、「(ペルフェクトが用いられるのは) 事実過去に起きた出来事について発言するときではあるが、それはその出来事の結果あるいは効果が発話のときにも継続しているのである。そのような出来事を『過去現在 (*prošlosadašnost*) 』と呼ぶことができよう。すなわち : *легао сам = лежим, пристао сам = пристајем...*」と述べている。

これに対し、HF 構文によって表されるのは、先行する動作によって生じた結果あるいはその状態である。これは、動作自体を意味し、その動作の結果が現在において残存していることが含意される以上のペルフェクトとは異なっている。次の例文を参照されたい。

(4) *Јуче сам то написао.*

昨日私はそれを書いた。

(5) **Јуче имам то написано.*

(6) *Од јуче имам то написано.*

昨日から私はそれを書いてある。

例文 (4) は過去における動作が述べられているので、過去を表す副詞を用いることができる(ここでは *јуче* (昨日) という副詞である)。ここでは、現在に残存する結果が含意されている。例文 (4) とは異なり、HF 構文は、先行する動作によって残った結果の、現在における状態が叙述されているだけで、完了した先行動作の存在自体は含意にとどまっている。したがって、例文 (5) のように、*habere* 動詞が現在時制である HF 構文と過去を表す副詞は共起し得ない。一方 (6) のような、過去そのものではなく、終了した動作の結果が発話の瞬間まで存在していることが明確であることが示される構文は可能である。¹¹

以上のことに関連して有意義と思われるのが、次の例文の比較である。

(7) *Брзо сам све скувала за славу.*

¹⁰ *Белић А.*, О синтаксичком индикативу и "релативу", С. 294.

¹¹ このことに関連して興味深いのはカシューブ語の現象である。ドイツ語(特に低地ドイツ語の口語)の強い影響を受けたカシューブ語では、ドイツ語と同じように *habere* 動詞を用いた完了を示す形式が知られている。この場合カシューブ語の HF 構文は、ドイツ語と同じように過去を表す副詞とも結びつくことができる。ドイツ語の例: *Gestern habe ich einen Film gesehen* (訳: 昨日私はある映画を見た)。カシューブ語の例: *A jô go móm loni zabité.* (訳: 俺は去年あいつを殺した。*Jan Drzeżdżon* 著 „*Na niwach*” より引用)。また後で触れるマケドニア語においても、やはり過去を表す副詞と結合できる。Оваа научна теза ја имам прочитано *пред 20 години.* (訳: このテーゼは 20 年前に読んである。Вечер 紙より引用)

祭のために食事を全部さつと作った。

(8) *Брзо имам све скувано за славу.

例文 (7) では、過去における動作を表しているので、動作の様態を表す副詞 (брзо (素早く)) と自由に結合することが可能である。一方例文 (8) は、現在における状態を表しているのであり、動作自体は現されていない。その存在は含意されているだけである。¹² 同様の理由で、*Шта радиш?* (何をしているの?) という質問に対する答えとして、*имам све скувано* といった文は、当然意味をなさない。

2.2. HF 構文と受動態について

HF 構文は、その構成要素から見て受動態との関係を考える必要がある。というのは、受動構文に発話内容の参加者の指標として *habere* 動詞を導入したとも考えられるからである。

セルビア語において、受動態は他のスラヴ語の場合と同じように同音異義的である。すなわち、二つの意味を持ちうるのであり、それは「プロセスを表す受動構文 (процесуелни пасив)」と「静的状態を表す受動構文 (статални пасив)」である。次の文を比較されたい。

(9) Школа је изграђена 1976. године.

学校は 1976 年に建てられた。

(10) Школа је изграђена од цигала.

学校はレンガでできている。

例文 (9) は、過去における受動的行為を示している。それに対し、例文 (10) は現在における状態を示している。Срего Танасић (2005) が指摘しているように、*јесам* 動詞と被動形動詞過去からなる受動の意味を持つ受動構文は、現在時制の意味にはならない (ここでは例文(9)に相当する)。¹³ 上で述べたように、HF 構文は、動作ではなく状態を表す。しかし HF 構文が、例文 (9) のように過去における動作として認識されないのはどうしてで

¹² HF 構文における「静態」は、動詞 *имати* の意味と合致する。動詞 *имати* は、他動詞ではあるが、他動性あるいはエネルギーの移動を表現しない。Даринка Гортан-Премк (1971) が書いているように、動詞 *имати* のシンタグマの本質的な意味特徴は不変性、不動性であり、一般的に静態であり、いかなる生産的な動き、対象の変化もない。Гортан-Премк Д., Акузативне синтагме без предлога у српскохрватском језику, С. 72.

¹³ Танасић С., Пасивне конструкције за исказивање референцијалних и неререференцијалних садашњих радњи, С. 73.

あろうか。ここで注意すべきことは、受動構文において行為主 (од+名詞・代名詞の生格) を表す表現がHF構文には組み込めないという事実である。以下の例文を比較されたい。

(11) Имам откуцано 100 страна.

私は 100 ページタイプしてある。

(12) *Имам откуцано 100 страна од пријатеља.

(13) Имам 100 страна (,) откуцаних од пријатеља.

私には 100 ページあるが、それらは友達によってタイプされたものだ。

(14) Имам 100 страна које су откуцане од пријатеља.

(13)と同じ

例文 (12) からわかるように、この HF 構文には行為主が入ることができない (この場合は *од пријатеља* のことである)。さらに注意すべきは、例文 (13) は (8) と異なり、統語的に分裂している文である。すなわち、前部では純粋な所有の意味 (имам 100 страна)、後部では受動態の意味 (*откуцаних од пријатеља*) が一文にまとめられている。例文 (13) は言い換えると (14) とほぼ同義と考えられる。

このことから明らかになるのは、HF 構文は「プロセスを表す受動態 (процесуелни пасив)」ではなく「静的状態を表す受動態 (статални пасив)」と関係しているということである。この事実は、エネルギーの移動を示さない動詞 *имати* の意味にも適っている。

3. HF 構文の文法的特徴について

既に述べたように、Пипер (2005) は、セルビア語において「所有完了 (посесивни перфекат)」が存在すると指摘し、実例を挙げている。これに対し、Grickat (1961) は「セルビア語には『所有完了』は存在しない」と明言している。¹⁴ 両者の見解の違いは、どのような概念に基づいているのか。上にも述べたが、セルビア語においてHF構文は、あまり頻繁に用いられることはない。それに加え、HF構文には、常に構文として実現するための普遍的な法則があるわけでもない。つまり、HF構文を持つドイツ語、英語、フランス語といった言語、あるいはスラヴ語ならばマケドニア語、カシューブ語とは異なり、セルビア語は高度な規則性を持つ文法的カテゴリーとしてのHF構文、動詞のパラダイムに組み込まれる形態的カテゴリーとしてのHF構文を有していないのである。¹⁵ ここで問題

¹⁴ Grickat I., Razvoj značenja glagola *imati*. C. 67-81.

¹⁵ このことに関連して、興味深いのは当該分野のスロヴァキア語における研究である。Eugen Pauliny (1949) は、*mám obe uvarený, mám podojené* といった HF 構文を stavové perfektum (状態のペルフェク

となるのは文法化の度合いという問題である。この意味においてセルビア語には「所有完了」が存在しているとは言えないのはGrickatの指摘通りである。しかし、別の意味において、つまり動詞иматиと被動形動詞から構成された、先行する動作を含意しその結果を示す統語意味論的複合体としては、「所有完了」が存在していると言えるのである。¹⁶ しかし、文法化の度合いは、実現した形式の意味の違いにも関係する。このことを考慮に入れ、以下形態的、統語的特徴を概観する。

3.1. 形態的特徴

セルビア語のHF構文は以下のような形態的特徴を持っていることが指摘できる。ここでは、セルビア語における形態的特徴の把握を深めるために、HF構文が文法化しているマケドニア語と比較する。¹⁷ 以下、〔1〕、〔2〕は被動形動詞の特徴、〔3〕は動詞иматиの特徴である。

〔1〕所与の構造において、被動形動詞過去は元の動詞が完了体であることが必須である。

(16) Имам све исписано из граматике.

私は全部文法書から書き出してある。

(17)*Имам све исписивано из граматике.

一方、マケドニア語においては、Зузана Тополињска (1995) が指摘しているように、被動形動詞の派生元の動詞が完了体の場合も不完了体動詞の場合もありうる。Тополињскаによれば、不完了体が使用された場合には、行為の終了は含意されるという。¹⁸ 最初に不

ト)と名づけ、動詞のパラダイムに含めている。しかし実際には、スロヴァキア語もセルビア語と同じように、HF構文は完全な文法化をしていないので、動詞のパラダイムとして扱うには無理があるが、セルビア語よりも使用範囲も頻度もはるかに広いことは確かである。Pauliny E., Slovenské časovanie, C. 55. また、上ソルヴ語に関して Helmut Faska は、当該文構造を動詞のパラダイムとしてみなしている。完了体動詞がほとんどであるが、不完了体動詞からも稀に所与の構造が形成する(例: To mam kazane) ことにおいて、セルビア語よりも文法化の方向にさらに進んでいる感はあるが、やはり全ての動詞から等しく形成されるわけではないので、動詞のパラダイムに含めるのは無理があるように思われる。Faska H., Pućnik po hornjoserbšćinje. C. 97-98.

¹⁶ Victor Friedman (1976) は、*on nema položen nijedan ispit* (訳: 彼は一つも試験を通過していない) と言う例を挙げ、これは true perfect と adjectival construction の中間的な形態であると指摘している。

¹⁷ 尚、マケドニア語には、動詞 *esse* を用いた完了形 (例: *сум дојден, сум дошол*) があるが、ここではこれら分析は扱わない。

¹⁸ Тополињска教授は、私信にて次のような会話文を紹介してくださった。A: *Имаш убав шал* (訳: 君はいいマフラーを持ってるね) ! B: *Сама го имам плетено!* (訳: 私が自分で編んだのよ!) (完了体の *исплетено* ではないことに注意)。また、*?Ја имам читано книгата, но не ја дочитав* (訳: 私は本を読んだが、しかし読み終えなかった)、あるいは *?Го имам гледано овој филм, но не го догледав до крај* (訳: 私はこの映画を見たが、最後まで見終わらなかった) といった文は許容しがたいこと

完了体の例, 続いて完了体の例を挙げる。

(18) Ја имам читано книгата.

私は本を読んだ。

(19) Го имам гледано овој филм.

私はこの映画を見た。

(20) Ја имам прочитано книгата.

私は本を読み通した。

(21) Го имам видено овој филм.

私はこの映画を見た。

[2] セルビア語の HF 構文において, 被動形動詞過去は他動詞から派生した場合に限定される。もとの動詞が自動詞, 目的語に対格をとらない動詞, 再帰動詞の場合には HF 構文は成立しない。

(22) Имамо обрађено педесет хектара (←обрадити педесет хектара)

私たちは 50 ヘクタール片付けてある。

(23) *Имам му помогнуто (非対格補語動詞: помоћи 「助ける」) .

(24) *Имам викнуто (自動詞: викнути 「叫ぶ」) .

(25) *Имам враћено у Београд (再帰動詞: вратити се 「帰る」) .

マケドニア語の場合は, セルビア語と異なり, 以上のすべてのケースが可能である。次の例文 (26), (27), (28) を比較されたい。

(26) Ракометот Ви има помогнато во кариера. (非対格補語動詞: помогне 「助ける」)

ハンドボールはあなたのキャリアを助けた。

(27) Имам дојдено. (自動詞: дојде 「来る」)

私は来た。

(28) Членот се има развиено од показни заменки. (再帰動詞: развије се 「発達する」)

後置冠詞は指示代名詞から発達した。

を指摘している。Тополињска 3., Македонските дијалекти во егејска Македонија, книга прва, Синтакса 1 дел, С. 210.

〔3〕動詞 *имати* のパラダイムのうち、最も良く用いられるのは過去、現在、未来形である。

(29) *Имао сам то написано већ јуче.*

私は昨日のうちにそれを既を書いてあった。

(30) *До сада имам то написано.*

私は今までにそれを書いてある。

(31) *Догодине ћемо имати то написано.*

私たちは今年の終わりまでにそれを書いておく。

他のパラダイムに関して言えば、アオリスト (*??имах то написано*)、インペルフェクト (*??имāх то написано*)、さらに副動詞現在 (*??имајући то написано*)、副動詞過去 (*??имавши то написано*) などは、理論的には可能であるが現実としては用いられることはない。その理由として、HF 構文が用いられる文体的特徴にある。すなわち、所与の構造が用いられるのは口語的文体と行政的な文書などに用いられる文体である。そもそも使用頻度が低い構文である上に、これらの文体では、アオリスト他が使われることはあまりないので、現実的には使用されないと思われる。

これに対し、マケドニア語はさらに複雑な動詞の形態システムを持っているので、理論的な可能性は広がる。ここでは、それら进行分析することが目的ではないので詳しくは踏み込まないが、Блаже Конески (1967) によれば、次の諸形式が可能であるという：*има напишано, имав напишано, сум имал напишано, беше сум имал напишано, ќе има напишано, ќе имав напишано, ќе сум имал напишано, би (сум) имал напишано*。¹⁹ しかしРина Усикова (2003) によると、最も良く用いられるのは動詞*има*の現在形と単純過去形であり（したがって*има напишано, имав напишано*）、Конескиの挙げるパラダイムのうち幾つかは（例えば*ќе сум имал напишано, би (сум) имал напишано*）は理論的な形式であるとしている。また、Снежана Велковска (1998) は、そのうちの幾つかは（例えば*беше сум имал напишано, ќе имав напишано*）は擬古的な形式と指摘している。²⁰

3.2. 統語的特徴

既に見たように、セルビア語の HF 構文は、動詞のパラダイムとしてではなく、統語的な統合体として存在している。したがって、基本的には、被動形動詞は共起する名詞の性・

¹⁹ Конески Б., Граматика на македонскиот литературен јазик, С. 502-506.

²⁰ Велковска С., Изразување на резултативноста во македонскиот стандарден јазик, С. 51.

数・格（この場合は対格）で従属的に一致する。すなわち：*полиција га има ухапшеног*（男性・単数，訳：警察は彼を逮捕してある），*имам све написано*（中性・単数，訳：私は全て書き終えてある），*имамо преведену причу*（女性・単数，訳：私たちはそのお話を翻訳してある），*имам истисане примере из граматике*（男性・複数，訳：私は文法書から例を書き出してある）などとなる。数詞の場合も，基本的には一致する。すなわち：*Тренутно на територији нашег савеза имамо регистрована 692 клуба*（訳：私たちの協会の範囲では目下 692 のクラブが登録してある）。

ただし，数詞が 5 以上，あるいは不特定数を意味する語（*доста*, *пуно*, *много*, *мало* など）が含まれることで可算名詞が複数生格となる場合には，名詞と被動形動詞の文法的一致が失われることが観察される。次の例を比較されたい。

(32) *Имамо обрађено 50 случајева.*

私たちは 50 件の事例を片付けてある。

(33) *До сада имамо узорано 78 хектара.*

私たちはこれまでに 78 ヘクタール耕してある。

(34) *Под кукурузом имамо засејано 40 хектара.*

私たちはとうもろこしは 40 ヘクタール蒔いてある。

(35) *Већ имам прикупљено доста материјала.*

私はもうかなりの材料を集めてある。

この事実が意味するのは，名詞と一致していた被動形動詞が，定語的機能から述語的な機能に移行しているのが形式的に露呈しているということである（次の例文を比較されたい：*написано је 120 страна*, **написаних је 120 страна*）。この意味において，セルビア語の HF 構文は純粋な所有を表す構文とは，異なっていると言えよう。

また，基本的には名詞の補語が必要であるが，被動形動詞の意味が名詞の存在を含意できる場合，あるいは名詞自体の意味が重要ではない場合には，名詞を省略することが見られるが，名詞の省略が単純ではない場合もある。次の例文を参照されたい。

(36) *Већ имам заказано у среду у 13:00.*

私は水曜日の午後 1 時にもう約束してある。

(37) *Већ имам положено за кола.*

私は自動車（免許のための試験）にもう合格している。

例文 (36) では，例えば，*време*（時間。中性名詞）といった単語の省略と考えることがで

きる。(37) の場合には、省略されている、あるいは含意されているのは *испит* (試験。男性名詞) という単語と想定されるが、単数でも、複数でもこの名詞と被動形動詞に文法的な一致を見出すことはできない。このことにより、被動形動詞が単なる名詞の定語ではないことがわかる一方、動詞と被動形動詞との結びつきの強まりが見て取られることも指摘できよう。

また、このことに関連して、これはむしろ意味的な問題に関わるのだが、既に挙げた否定を含む例文 (3) *Ви овде немате урађено све оно што је договорено* を見ると、否定に係っているのは、名詞というよりは被動形動詞であることに気がつく。²¹ この意味において、この構文では、動詞 *habere* と被動形動詞との意味的、さらには文法的関係の度合いが緊密になっていることが読み取れ、被動形動詞が単なる名詞の定語ではないということが指摘できる。²²

4. 意味的な特徴

以上に述べた文法的特徴、あるいは文法的制限以外に、HF 構文が成立するための意味的な制限がある。ここでは、その主要な特徴を検証する。

[1] 被動形動詞が完了体の他動詞から派生しているという条件を挙げたが、すべての他動詞が HF 構文で用いられるわけではない。元の動詞が、動的であり、行為により結果を残し、かつ行為前と行為後にその違いが明確に現れ、それが行為の参加者に何らかの影響を与えることが条件となる。次の例文が不可能なのは、以上の理由による。

(38) *Имам девојку пољубљену.

(39) *Имам завољеног момка.

²¹ このことについて、Janez Orešnik (1994) もスロヴェニア語の動詞 *imeti* を題材として類似の指摘をしている。Orešnik は、*Škofo nimam povabljenega na kosilo* (訳：私は司祭を昼食に招待していない) という文における否定は、名詞ではなくむしろ分詞であると指摘している (すなわち司祭は招待されていないか、あるいは招待を断ったということである)。Orešnik J., *Slovenski glagolski vid in univerzalna slovnica*, C. 48.

²² Kuteva & Heine (2006) は、Breu (1994) と Vasilev (1968) を引用し、セルビア語あるいはクロアチア語では、所与の構造において常に文法的な一致が認められるとし、また、そのことをセルビア語の所有完了の文法化の度合いと結び付けている。しかし、ここで挙げた例文 (32)–(37) からわかるように、セルビア語には実際に文法的な一致が認められない例が存在する。そして、このような文法的な一致の破綻や例文 (37) に見られるような被動形動詞の「独立的」使用は、所有完了の文法化への典型的なパターンの一つであることは認めるにしても、ここでの例文からもわかるように、数詞との一致など文法化とは直接結びつかない要素もあり (またセルビア語ではあまり用いられない目的語の否定生格の問題もある)、以上のことが文法化の程度ということと必ずしも唯一直接的に結び付けられるものではないと思われる。Kuteva T. & Heine B. *The Changing Languages of Europe*, C. 162.

(40) *Имам поздрављеног професора.

これらの例文が不適なのは、пољубити (軽くキスする)、завети (好きになる)、поздравити (挨拶する) といった動詞は、行為前後を比べて状態の明確な違いが存在しない、あるいは行為後が問題ではないという行為、すなわち結果そのものが重要な行為でもないからである。

〔2〕HF 構文は、普通の所有を意味する構文から離れているものの、根源的な所有の意味を完全には失っていない。次の文を比較されたい。

(41) Имам написано 100 страна.

私は 100 ページ書いてある。

(42) *Имам прочитано 100 страна.

例文 (41) は、動作が終了した結果、行為前後で明確な変化が認められるが、それと同時にその結果を「所有」していることが含意されている。この場合であれば、書き終えた 100 枚の紙が、何らかの形で所有されていることが前提となる。これに対し、例文 (42) は、動作の終了した結果、行為前後で明確な変化が認められるが、その結果を「所有」することはできない。同じ理由で、例えば、*имам то преведено* という文における被動形動詞 *преведено* が意味するのは、口述によるものではなく、それよりも本やテキストといった具体的に所有される対象であることが普通である。

このことが最も明確になるのは、所有の意味と矛盾する意味の被動形動詞（ここでは *изјести* (食べつくす)、*распродати* (売り切る)) を含んだ、次の例文である。

(44) *Имам изједен хлеб.

(45) *Имамо распродане све карте.

もし、パンを全部食べてしまったら、そのパンは既に存在していないので、所有することはできない。同様のことが例文 (45) でも言える。すべての切符を売ってしまったら、切符自体を所有することはできない。これらの例文が認められないのは、動詞 *имати* の本源的な所有の意味と矛盾しているからに他ならない。²³

²³ この点において興味深いのは、次のスポーツ記事からの例文である：*Партизан је имао 13 изгубљених лопти* (訳：パルチザンは 13 回ボールを失った (=ターンオーバーした))。これは一見動詞 *имати* の意味と矛盾しているように思われるが、ここでは具体的にボールがとられたことではなく、その回数のことを言っているのであることに注意しなければいけない。例：*Партизан је имао 13 изгубљених лопти, 10 слободних бацања и 14 фаулова* (訳：パルチザンは 13 回ターンオーバーし、10 回フリースローを得、14 回ファールした)

このことから言えるのは、セルビア語の HF 構文においては、動詞 *имаги* が助動詞的な機能をしているとはいえ、語義の弱化の程度が弱いことである。動詞 *habere* の意味の弱化の度合いは、言語により異なる。例えば、セルビア語と同じように HF 構文が文法化していないポーランド語の例と比べることでわかる。

(46) Mam 100 stron przeczytanych / przeczytane.²⁴

私は 100 ページ読んである。

(47) Mam chleb zjedzony.²⁵

私はパンを食べてしまっている。

(48) Mamy wszystkie bilety wysprzedane.

私たちは切符をすべて売ってしまっている。

以上の例からわかるように、ポーランド語の場合は動詞 *habere* すなわち *mieć* (セルビア語の動詞 *имаги* に相当) が持つ基本的な「所有性」という意味に関して矛盾する意味を持つ動詞から派生した被動形動詞とも結合できることから、その意味の弱化がさらに進んでいることがわかる。²⁶

[3] Havránek (1937) が述べているように、所与の構造において、動詞 *habere* の現在形が表す人称と現実の行為主は必ずしも一致する必要はない。²⁷ 次の例文を参照されたい。

(49) Veћ imam položeno za kola.

私はもう自動車免許の試験は合格している。

(50) Имам то записано.

私はそれを書き付けてある。

²⁴ この構文のうち、文法的な一致をみる形式 (すなわち前者) がより一般的であるが、一致をしない形式は、とりわけ口語で観察される。

²⁵ Kazimierz Nitsch (1954) によれば、この例文は前世紀の初頭では認められない表現であったようだが、Krystyna Pisarkowa (1977) が指摘するように、現在のポーランド語では、特に口語において観察される表現である。

²⁶ Kuteva と Heine (2004, 2006) は、いわゆる所有文から所有完了への発展段階を 4 段階に分け、セルビア語はスロヴァキア語、チェコ語、ポーランド語などと同じ段階に属するとしている。大まかに分類すれば、完全には文法化していないグループという意味において同じグループに入るかもしれないが、より具体的な事象を見た場合、ここで述べた動詞 *habere* の意味の弱化の度合いという点において、セルビア語とポーランド語が同じ段階にあるとは言えない。Kuteva T. & Heine B. On the Possessive Perfect in North Russian, C. 42-43. Kuteva T. & Heine B. The Changing Languages of Europe, C. 140-182.

²⁷ Havránek B., Genera verbi v slovanských jazycích II, C. 76.

例文 (49) は、言語外的意味も手伝って、動詞*имати*の主語と実際の行為主は一致すると考えられる。しかし、例文 (50) では、必ずしもメモをしたのが自分である必要はない。誰かが自分のためにメモをしてくれていて、その結果として残っている（そして「私が持っている」「私がそれを使える状況にある」）という場合も不自然ではない。つまり、動詞*имати*の人称形が示すのは、行為とその結果に関係する（あるいは関心を持つ）人間なのである。Grickat (1961) は、*имам лађу спрењену*（訳：私は船の掃除がしてある）という例文を挙げ、ここで表されているのは所有の事実というよりも、動詞*имати*の主語の「関心 (*заинтересованост*)」であることを指摘している。²⁸

このことは、いわゆる「所有の与格」あるいは「関心の与格」が伝える意味と類似している。興味深いことに、ポーランド語、チェコ語などセルビア語に比べて「所有の与格」あるいは「関心の与格」が発展していないスラヴ語では *habere* 動詞、さらには HF 構文が広く用いられ、与格の使用範囲が広いセルビア語では、逆に HF 構文の使用範囲が狭くなっているが、これは偶然ではないだろう。

これに対し、既に HF 構文の文法化が高い言語では、動詞 *habere* の主語と行為主は一致する。例えば、マケドニア語で *го имам запишано*（訳：私はそれを書き付けてある）と言った場合には、動詞 *има* の主語は一義的に行為主と解釈される。広い意味における「所有者」が行為主と再解釈されることが、所与の現象の文法化における重要な点であろうが、上に見たようにセルビア語では——少なくとも文語に限っていえば——その段階には到達していない。

5. 結論に代えて

本稿では、「セルビア語統語論：単文」における記述を手がかりとして、現代セルビア文語における HF 構文の重要な文法的・意味的特徴の概観を試みたわけだが、この構造がどのように生じたのか、そして発展しているのか、換言するならば、文法化の過程を進んでいるかどうかは未詳である。この言語は、多様な言語に囲まれているので、それらの言語から受けた影響もあるだろうし、一部の方言については本稿でも触れたが、方言差も少なからず見られるだろう。

また、同じ南スラヴ語でも、本稿では触れなかったスロヴェニア語では、所与の構造の使用範囲と頻度がセルビア語に比べると広い。このことを考えると、クロアチア語とセルビア語においても使用範囲や頻度が異なる可能性は残る。²⁹ また、セルビア語の中での内

²⁸ Grickat I., *Razvoj značenja glagola imati*. C. 75.

²⁹ 尚、ドイツ語との接触の結果カシューブ語に生じた、あるいはアルーマニア語などとの接触の結果マケドニア語に生じたと思われる所有完了の場合を鑑みると、所有完了を既に持っている言語と

的發展の結果ということも十分考えられるが、それはまだ証明されていない。これらを詳しくらかにすることが今後の課題である。

引用参考文献

- Faska, Helmut (2003) *Pučnik po hornjoserbšćinje*. Bautzen.
- Feleszko, Kazimierz (1981) O rezultatywności perfekturn serbsko-chorwackiego. *Studia linguistica memoriae Zdislai Stieber dedicata*: 145-149.
- Friedman, Victor (1976) Dialectal Synchrony and Diachronic Syntax: *The Macedonian Perfect*. *Chicago Linguistic Society*: 96-104.
- Grickat, Irena (1961) Razvoj značenja glagola *imati*. *Radovi AN NRBiH XVIII*: 67-81.
- Havránek, Bohuslav (1937) *Genera verbi v slovanských jazycích II*. Praha.
- Kuteva, Tania & Heine, Bernd (2004) On the Possessive Perfect in North Russian. *Word*, vol. 55 No. 1.: 37-71.
- (2006) *The Changing Languages of Europe*. Oxford.
- Maretić, Tomislav (1963)³ *Gramatika hrvatskoga ili srpskoga književnog jezika*. Zagreb.
- Nitsch, Kazimierz (1954) *Wybór pism polonistycznych*, tom 1. Wrocław.
- Orešnik, Janez (1994) *Slovenski glagolski vid in univerzalna slovnica*. Ljubljana.
- Pauliny, Eugen (1949) *Slovenské časovanie*. Bratislava.
- Stieber, Zdzisław (2005)⁴ *Zarys gramatyki porównawczej języków słowiańskich*. Warszawa.
- Белић, Александар (2000) *О различитим питањима савременог језика*. Београд.
- Велковска, Снежана (1998) *Изразување на резултативноста во македонскиот стандарден јазик*. Скопје.
- Горган-Премк, Даринка (1971) *Акузативне синтагме без предлога у српскохрватском језику*. Београд.
- Демирај, Шабан (1994) *Балканска лингвистика*. Скопје.
- Ивић, Милка 編, Пипер, Предраг 他 (2005) *Синтакса савременог српског језика: проста реченица*. Београд.

の接触から所与の形式が借用され、あるいはその文法化が加速すると考えられる。しかし、例えばイタリア中南部モリーゼ州のクロアチア語、あるいはオーストリアのブルゲンラントのクロアチア語などは、イタリア語やドイツ語の影響を受けているはずなのだが、Milan Rešetar (1911) の *Die Serbokroatischen Kolonien Südtaliens*, Nikola Benčić 他 (2003) の *Gramatika gradišćanskohrvatskoga jezika* を参照する限り、所与の現象に関する記述や、それと思われる例は見当たらなかった。

- Конески, Блаже (1967)² *Грамматика на македонскиот литературен јазик*. Скопје.
- Младеновић, Радивоје (2001) *Говор шарпланинске жупе Гора. Српски дијалектолошки зборник XLIII*: 1-606.
- Станишић, Вања (1995) *Српско-албански језички односи*. Београд.
- Танасић, Срето (2005) *Синтаксичке теме*. Београд.
- Тополињска, Зузана (1995) *Македонските дијалекти во Егејска Македонија*, книга прва, Синтакса 1 дел. Скопје.
- Усикова, Рина Павловна (2003) *Грамматика македонского литературного языка*. Москва.

О конструкции типа *habeo factum* в сербском языке

НОМАТИ Мотоки

В этой статье анализируется резултативная конструкция с глаголом *имати* и причастием на *-н-*, *-т-* типа *имамо обрађено 50 случајева* на уровне грамматики (морфологии и синтаксиса) и семантики. Сравнивая при этом данную конструкцию с соответствующими ей конструкциями в других славянских языков, автор пришел к следующим выводам:

1. в сербском языке *habeo factum* конструкция с резултативным значением не является грамматикализованной конструкцией в отличие от македонского языка. Она принадлежит к категории между морфологией и синтаксиса.

2. в сербском языке сэми-копулятивный глагол выражает заинтересованное лицо, а при образовании названной конструкции не теряет полностью свое собственное посессивное значение. Из-за этого в этом языке нет регулярности ее образования.